

## 会社による吉田との和解＝採用に満腔の怒りをもって抗議する

JR東日本会社は、本日付で吉田をJR東日本に採用し、東京支社人事課所属・東日本環境アクセスへの出向発令を行った。この発令は吉田がJR東日本を相手取り復職を訴えていた裁判で和解が成立したためのものである。

吉田が自らの意思で退職したことは公然の事実である。「えん罪・JR浦和電車区事件」の公判廷で当時の管理者でさえ「通常の退職の手続きであった」と証言していることからそれは証明されている。にもかかわらずJR東日本会社は未だ係争中の裁判について法曹界の常識を大きく逸脱し、美世志会に対して人権を無視した不当懲戒解雇処分を発令した。その一方で吉田と和解し採用するということは社員の主張は信用せず、自ら退職した者の主張に与するものであり、常軌を逸した会社の姿勢は断じて認められない。

「えん罪・JR浦和電車区事件」は公安警察が吉田を説き伏せてつくりあげたJR東労組潰しの国策弾圧である。その公安警察幹部とJR連合・角田会長が昨年2月9日、赤坂の某ラウンジで親密に飲食を共にしていたとの事実は、この弾圧の大きな仕掛けを想像するに難くない。

1月16日の民主党大会を前に、1月14日には『週刊新潮』が「たしろ かおる」氏や山岡賢次氏を名指しで誹謗する記事を掲載した。この時期にあえて行った会社の行為は、まさに権力・JR連合の意を体した一部マスコミの悪辣な「反たしろ＝反JR総連・東労組キャンペーン」に合わせるかのような政治的意図さえ感じる。

その狙いは明らかである。ひとつには、われわれの上告審のたたかいへの妨害であり、一審・二審の不当判決を後押しするものである。ふたつには、「たしろ かおる」の民主党公認獲得が大詰めを迎えた中で、そのことに対する妨害であり断じて許されるものではない。

われわれは、7年間にわたる壮絶なたたかいを美世志会と家族、多くの心ある労組・市民とともにたたかい権力の狙いをはねのけてきた。しかし、「えん罪・JR浦和電車区事件」をたたかい抜いている東労組の代表が国政に出ることを許さないとする新たな攻撃が始まっている。JR東労組は全組合員と共に心ある多くの人々と連帯し、参議院選勝利と美世志会の完全無罪と職場復帰に向けてたたかい続けるものである。

全組合員へ訴える！

怒りをバネに、いかなる妨害もはねのけ「たしろ かおる」を国政へ送りだそう！

今回の会社の行為は、国鉄改革過程、そして改革以降の多岐にわたるJR東労組の取り組み、「国鉄改革の原点」をも踏みにじるものでしかない。厳しい上告審のたたかいは続くが、あらゆる困難を乗り越え、われわれは美世志会の仲間とともに完全無罪と不当懲戒解雇処分撤回に向けたたたかいを全ての職場・地域からつくり出していく。

中央執行委員会はその最先頭で奮闘していくものである。

2010年1月15日  
東日本旅客鉄道労働組合  
中央執行委員会